



# 2023年3月期 決算説明会

2023年5月18日

株式会社SRAホールディングス  
代表取締役社長 鹿島 亨



# アジェンダ



2023年3月期 総括

2024年3月期 計画

今後の取り組み

お知らせ

株主還元



# 2023年3月期 総括

# 業績/前年比



●売上高:増収

●粗利益:増加

●販管费率:横ばい

●営業利益:増益

●経常利益:増益

●当期純利益:減益

単位:百万円

	2023年3月期 実績	2022年3月期 実績	差異 (増減率)
売上高	42,864	40,203	+2,661 (+6.6%)
粗利益	10,755	9,937	+818 (+8.2%)
粗利益率	25.1%	24.7%	+0.4%
販管費	4,751	4,497	+254 (+5.7%)
販管费率	11.1%	11.2%	△0.1%
営業利益	6,004	5,440	+563 (+10.4%)
営業利益率	14.0%	13.5%	+0.5%
経常利益	7,201	6,463	+738 (+11.4%)
経常利益率	16.8%	16.1%	+0.7%
当期純利益	879	3,577	△2,697 (△75.4%)

# 業績/業績予想(2022年5月発表)比較

- 売上高、営業利益、経常利益：達成
- 当期純利益：未達 … 要因：特別損失(貸倒引当金・投資有価証券評価損)の計上

売上高については、3期連続で増収

営業利益、経常利益については、いずれも4期連続で過去最高を更新

単位：百万円

	2023年3月期		
	実績	業績予想 (2022年5月発表)	差異 (達成率)
売上高	42,864	42,500	+364 (+0.9%)
営業利益	6,004	5,200	+804 (+15.5%)
経常利益	7,201	5,200	+2,001 (+38.5%)
当期純利益	879	3,300	△2,421 (△73.4%)
1株当たり当期純利益	71.13	267.50	△196 (△73.4%)

# 売上高/セグメント別(前年比)

- 開発事業：増加 … 製造業向け、金融業向けが増加
- 運用・構築事業：増加 … 通信業向け、情報サービス業向けが増加
- 販売事業：減少 … 海外子会社で減少したものの、AIT・SRAは増加

単位：百万円

	2023年3月期 実績	2022年3月期 実績	差異	(増減率)
開発事業	23,701	21,673	+2,028	(+9.4%)
運用・構築事業	5,804	5,664	+140	(+2.5%)
販売事業	13,359	12,865	+494	(+3.8%)
合計	42,864	40,203	+2,661	(+6.6%)

# 売上高/顧客業種別

単位:百万円

	開発事業		運用・構築事業	
	2023年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2022年3月期
製造業	▲ 9,388	8,827	1,119	1,361
通信	470	448	▲ 931	678
電力・ガス	1,054	1,092	26	92
金融	▲ 6,631	5,749	1,192	1,415
生損保	445	457	79	188
流通	895	880	1	4
大学等	1,051	1,066	985	1,026
ハードメーカー	249	149	133	31
情報サービス	1,082	472	▲ 1,120	517
サービス他	2,437	2,529	218	349
合計	23,701	21,673	5,804	5,664



**販売事業：前年比 増加 (+3.8%)**

## AIT 販売事業 売上高

単位：百万円

2023年3月期 実績	2022年3月期 実績	差 異	(増減率)
10,890	10,387	+503	(+4.8%)

◎大学向けが増加

## SRA 販売事業 売上高

単位：百万円

2023年3月期 実績	2022年3月期 実績	差 異	(増減率)
1,446	1,236	+210	(+17.0%)

**SRAOSS：減収**



# 収益分析(前年比)

## 粗利益、営業利益、経常利益の利益額・利益率ともに過去最高

● 粗利益 増益 10,755百万円 +818百万円(+8.2%)

粗利益率 24.7%→25.1%

〔主な要因〕 高付加価値ビジネスへの移行推進

5期連続で過去最高を更新

7期連続で過去最高を更新

● 営業利益 増益 6,004百万円 +563百万円(+10.4%)

営業利益率: 13.5%→14.0%

〔主な要因〕 営業活動の効率化、販管費の機動的な運用

4期連続で過去最高を更新

● 経常利益 増益 7,201百万円 +738百万円(+11.4%)

経常利益率: 16.1%→16.8%

〔主な要因〕 営業外収益(為替差益)の増加

● 当期純利益 減益 879百万円  $\Delta$ 2,697百万円( $\Delta$ 75.4%)

〔主な要因〕 特別損失(貸倒引当金、投資有価証券評価損)の計上

# 参考:グループ会社実績

単位:百万円

		2023年3月期 実績	2022年3月期 実績
SRA	売上高	21,343	19,787
	経常利益	6,190	5,370
AIT	売上高	13,149	12,456
	経常利益	1,423	1,294
ソフトウェア・サイエンス	売上高	3,326	2,807
	経常利益	521	399
SRA西日本	売上高	1,510	1,469
	経常利益	269	239
SRA東北	売上高	1,394	1,419
	経常利益	260	320
SRAアメリカ SRAヨーロッパ	売上高	1,337	1,051
	経常利益	△42	173
SRA OSS	売上高	1,337	1,500
	経常利益	△453	△241
その他の子会社	売上高	1,397	1,482
	経常利益	52	55
合計	売上高	44,796	41,971
	経常利益	8,223	7,609

太字:前年同期比で増

# 特別損失の計上について



## <特別損失 4,255百万円>

(内訳) 投資有価証券売却損	435百万円(K社株譲渡)
貸倒引当金繰入額	2,300百万円(K社宛貸付引当)
投資有価証券評価損	1,517百万円(市場下落)

キャッシュアウトを  
伴わない  
一過性の評価損

## ○中国への投資背景

国内での成長には限界があるとの認識のもと、「自社IP」×「海外ビジネス」に注力し、成長市場としての中国に投資

## ○Kingnetの業績悪化

コロナ禍によるロックダウン、原材料供給の停滞の影響を受け、当社の持分法適用子会社で、委託製造請負業を営むKingnetの業績が急速に悪化

## ○対応スキーム

中国の香港市場メインボード上場企業グループと協議

- ・当社がKingnetに対して有する貸付債権を同企業グループが引き受け
- ・当社が有するKingnet株式を同企業グループに対して無償で譲渡

## ○狙い・効果

- ・Kingnetの再建可能性、貸付債権の回収可能性が向上
- ・「全額」引当により将来的な追加損失の発生を抑制
- ・今後の回収分はすべて「利益」として計上



# 2024年3月期 計画

# 2024年3月期 計画

単位:百万円

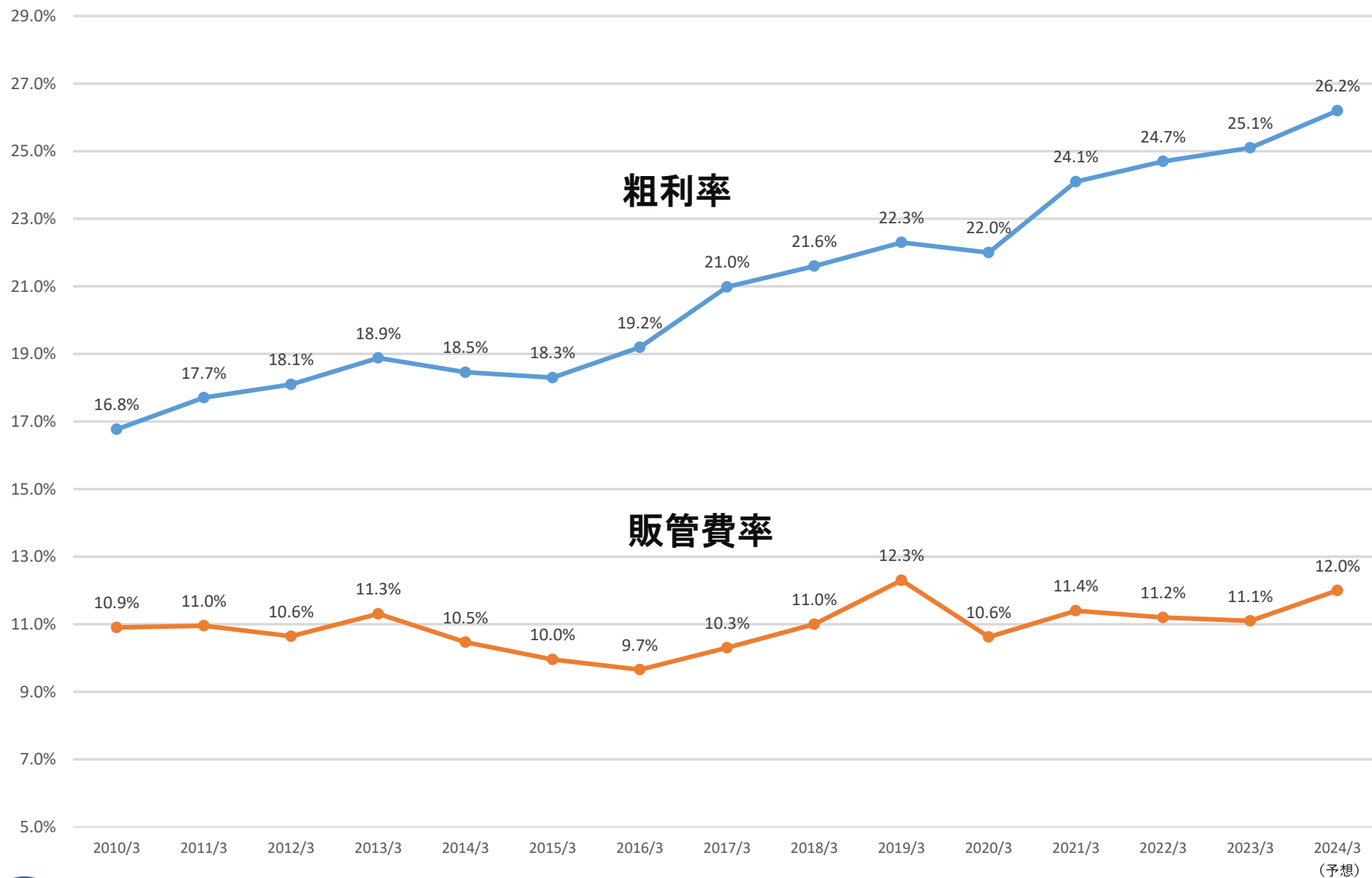
	2024年3月期 計画	2023年3月期 実績	増減
売上高	44,500	42,864	+1,636
粗利益	11,640	10,755	+885
粗利益率	26.2%	25.1%	1.1%
販売管理費	5,390	4,751	+639
販管費率	12.1%	11.1%	1.0%
営業利益	6,250	6,004	+246
営業利益率	14.0%	14.0%	0.0%
経常利益	6,150	7,201	△1,051
経常利益率	13.8%	16.8%	△3.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,600	879	+2,721
1株当たり当期純利益	290.41円	71.13円	+219.28円
1株当たり配当金	140.00円	140.00円	±0

(営業活動費等増加)

(前期為替差益等の  
要因を考慮)

※2024年3月期計画 販売管理費には「投資」を含む

# 参考：粗利益率と販管費率の推移(連結)



# 計画/セグメント別 売上高



単位:百万円

	2024年3月期 計画	2023年3月期 実績	差異 (増減率)
開発事業	24,500	23,701	+799 (+3.4%)
運用・構築事業	6,250	5,804	+446 (+7.7%)
販売事業	13,750	13,359	+391 (+2.9%)
合計	44,500	42,864	+1,636 (+3.8%)

※連結相殺前の数値

# 計画/主要グループ会社別 売上高



単位:百万円

	2024年3月期 計画	2023年3月期 実績	差異
(株)SRA	22,000	21,343	+657
(株)AIT	13,200	13,149	+51
国内子会社	6,350	6,231	+119
海外子会社	4,000	3,518	+482

※連結相殺前の数値





# 今後の取り組み

# SRAグループ経営方針



## ①既存顧客の深耕

- ・ グループシナジーを強化
  - ・ お客様からのニーズに応じて、ソリューションを有するグループ内他社に案件をトスアップ
  - ・ 各社が有する「製品/サービス」を、グループ内他社のお客様に積極的にクロスセル
  - ・ グループや事業部横断の営業組織を活用したマーケティング強化と販売力強化
- ・ 採算性向上
  - ・ 生産間接費の適正化
  - ・ 高収益案件の選択受注

# SRAグループ経営方針



## ②ビジネスモデルの変革

- クラウドインフラビジネス(自動化、DevOps、セキュリティ等)への展開
- LowCode、NoCode開発(OutSystems、ServiceNow等)の推進
- 製品提案型の業務コンサルティングにより「開発」、  
「運用・構築」、「販売」のより上流から参画することで  
ビジネスチャンスを拡大  
(Oracle ERP Cloud、Salesforce、AWS、BlackRock社製品 等)
- AWS有資格者数 71名(2022年2月)→103名(2023年2月) + 32名



## ③ 自社IP製品×グローバルビジネスの推進

- 自社IPの商品力向上と販売力強化  
(P-CON、Proxim、Cavirin、UniVision、DB-Spiral等)
- オープンソースやクラウド対応によるセキュリティ、健康管理、データ分析、AI/OpenAI等
- 成長分野における新自社IP製品開発  
(FIDO対応セキュリティ製品、ウェアラブルアプリ)
- マルチクラウドやハイブリッドクラウド対応サービスの充実
- 東南アジア、特にベトナムを中心とした市場の開拓

# 参考：自社IP製品



<https://www.sra.co.jp/p-con/>

既存の業務フローを大きく変えることなく、帳票への手書きでの記入作業をパソコン・スマホ・タブレットで行うことができるペーパーレスサービス。紙の帳票をそのまま電子帳票化。「承認」などの社内業務プロセスもWeb上で完結



<https://proxim.com/>

ワイヤレスデータコミュニケーション分野の最前線で、革新的ソリューション(ITS、監視カメラ／無線通信)を提供すると共に業界標準策定にも積極的な役割を果たしてきた無線機器メーカー。欧米に加え、中国、ASEANなどの成長市場にも注力



<https://www.sra.co.jp/cavirin/>

ハイブリッドクラウド用の包括的ソリューション。DevSecOpsに基づくコンプライアンス、セキュリティ対策を自動化。データセンターとクラウドに対し、統一かつ一元的にセキュリティポリシーを適用



<https://www.sra.co.jp/UniVision/>

文教システムをWebサービスにより統合した総合文教ソリューション。入試・教務・ポータル・学費・奨学金・健康管理・通信制大学に対応、「学生ポートフォリオ」「授業評価アンケート」等の学修環境までサポート



<https://www.sra-tohoku.co.jp/lp/DB-Spiral/>

研究者情報管理から大学評価まで。用途に応じてパッケージを選択できる大学情報データベースシステム



# お知らせ

# 当社の役員人事に関するお知らせ

当社は、指名・報酬委員会の審議を経て、2023年5月18日開催の取締役会において、下記のとおり役員人事の内定に関する決議を行いましたのでお知らせいたします。

なお、本件につきましては、2023年6月22日開催予定の第33回定時株主総会及びその後の取締役会において、正式に決定される予定です。

## 役員の変動

### 株式会社SRAホールディングス

#### (1) 新任取締役候補者

うちだ ひろゆき

取締役 内田 裕之(現 株式会社SRA顧問)

取締役 角 里香(現 株式会社セオリア代表取締役)

(現 株式会社インベスター・インパクト代表取締役社長)

※1 角 里香氏は、社外取締役候補者です。

※2 角 里香氏は、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員要件を満たしており、選任が承認された場合は、独立役員として届け出る予定です。

#### (2) 補欠監査役候補者

補欠監査役 吉村 茂 (現:当社監査室長)

# 代表取締役の異動(社長交代)に関するお知らせ

当社は、指名・報酬委員会の審議を経て、2023年5月18日開催の取締役会において、下記のとおり代表取締役の異動(社長交代)について決議しましたのでお知らせいたします。

なお、本件につきましては、2023年6月22日開催予定の第33回定時株主総会及びその後の取締役会において、正式に決定される予定です。

## (1)異動の理由

経営体制の強化及び刷新を図り、当社グループの持続的な成長と更なる企業価値向上を目指すため、代表取締役の異動及び社長交代を行うことにいたしました。

## (2)異動の内容

氏名	新役職名	旧役職名
鹿島 亨	代表取締役会長	代表取締役社長
大熊 克美	代表取締役社長	取締役 常務執行役員

## (3)新任代表取締役社長の略歴

氏名	大熊 克美(オオクマ カツミ)	
生年月日	1963年4月11日	
略歴	1987年4月	日本アイ・ビー・エム株式会社入社
	2001年2月	株式会社AIT営業部長
	2006年4月	同社取締役専務執行役員
	2007年4月	日本アイ・ビー・エム株式会社BTO事業営業部長
	2008年4月	株式会社AIT取締役副社長
	2009年4月	同社代表取締役社長(現任)
	2014年6月	当社取締役(現任)
	2016年6月	株式会社SRA取締役(現任)
	2019年6月	当社常務執行役員(現任)
所有株式数	5,600株(2023年3月31日現在)	





# 株主還元

# 株主還元の実

## ■ 1株当たり配当金

- ・2022年3月期:130円  
中間配当金:40円+期末配当金:90円  
(期末配当 当初計画比10円増配)  
配当性向 44.8% 配当利回り: 4.7%
- ・2023年3月期:140円  
中間配当金:40円+期末配当金:100円  
(期末配当 当初計画比10円増配)  
配当性向 1% 配当利回り: 4.8%
- ・2024年3月期:140円 (計画)  
中間配当金:40円+期末配当金:100円  
配当性向 48.2%

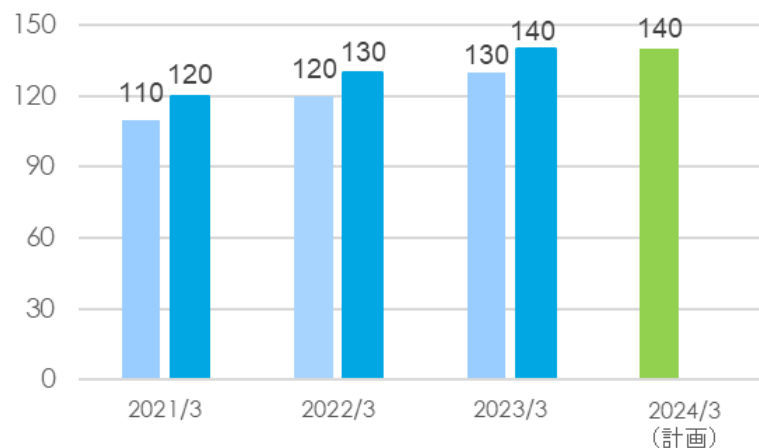
## ■ 連結 ROE 10%以上を持続的に確保

- ・2023年3月期: 3.3%
- ・2024年3月期:13.3%(予想)

1株当たり配当金

(単位:円)

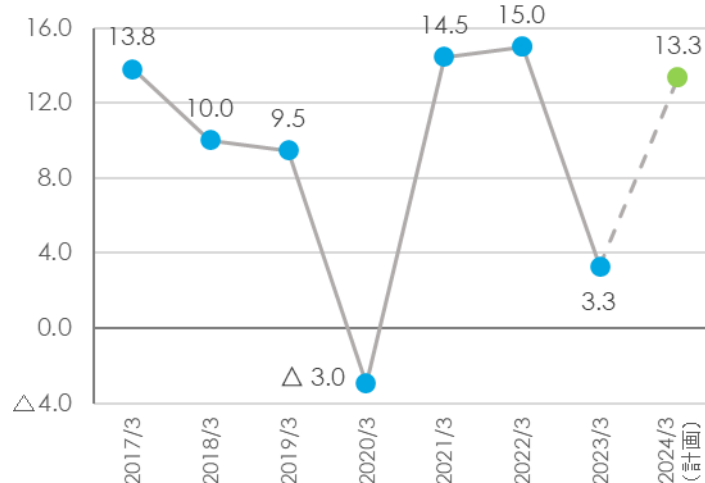
■ 当初予定配当 ■ 配当(実績) ■ 配当(計画)



ROE(自己資本当期純利益率)

(単位:%)

● 通期 ● 通期(予想)



# 参考：配当金の推移

## 親会社株主に帰属する当期純利益と1株当たり配当金の推移

親会社株主に  
帰属する  
当期純利益  
(億円)

■ 普通配当 ■ 特別配当／記念配当 ▲ 親会社株主に帰属する当期純利益

今後も従来通り配当性向50%を目途に  
安定的な高配当 を目指す



## ＜将来見通し等に関する注意事項＞

本資料につきましては、投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提としており、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。